

小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	2	施策名	子ども・子育て，若者への支援		
小施策コード	2-6	小施策名	児童・青少年の健全育成		
小施策 主管課等コード	171000	小施策 主管課等名	子ども青少年課		
評価責任者名	壽 俊行		内線番号	691-6411	
評価シート作成者名	佐久山 久美子		内線番号	691-6412	

Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
子育て支援サービス利用者数	↑	人	70,179	76,691	80,223	74,000	77,000
まちづくり評価アンケート調査「子育てをつらいと感じている」と答えた子どものいる親の割合	↓	%	19.2	22.0	24.0	14.5	10.0
まちづくり評価アンケート調査「盛岡市の子育て支援策・支援活動が充実していると感じる」と答えた市民の割合	↑	%	17.0	13.3	15.2	40.0	50.0

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
子ども	健全育成が図られる。
現状と課題	家庭や地域の養育力が低下し，子ども・若者を取り巻く環境が悪化しているため，児童虐待やいじめ，少年による重大事件の発生，有害情報の氾濫などの問題が生じており，家庭環境や大人社会のあり方を改善しながら子ども・若者の健やかな成長を図るため，豊かな人間性の育成，基本的な生活習慣の形成，学力・体力の向上等の取組を実施する必要がある。
取組の方向性	一人ひとりの個性を伸ばし，心豊かで逞しい児童・青少年の育成を図る。

Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
補導件数	↓	人	194	114	118	150	150

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

Step 4 市民ニーズの把握

- 盛岡市における少年補導の件数は平成25年から2年連続で減少したものの昨年度は4人増となり、その学識別でみると低年齢化が進んでおり、市の少年センター運営協議会においても、学校、保護者、地域が一体となった取組が必要であるとの意見が出されている。
また、市の少年センターでは繁華街や各中学校区ごとに街頭巡回を実施して積極的に声かけを実施し、犯罪に陥る前に指導するなど一定の成果は挙げているが、潜在化している問題行動が存在していると考えられることから、警察等関係機関とも連携した取組が求められている。
- 出会い系サイトなどに代表されるネット社会に潜む危険性などを、子どもやその保護者に理解してもらうための啓発活動や出前講座の開催などが求められている。
- 悩み事を抱える少年の身近な窓口として、少年センターで開設している少年相談の充実が求められている。

Step 5 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	「盛岡市子ども・若者育成支援計画」に基づき、学校、地域、行政、庁内各課が連携して青少年を取り巻く環境づくりの方向性を示す。	30
	国・県・ 他自治体	国、県では、将来を担う青少年の健やかな成長を促進するため、人材育成、地域社会の形成などの施策を掲げている。	20
	市民・ NPO	家庭や地域が青少年健全育成の取り組みの中で果たす役割は大きい。	30
	企業・ その他	青少年に悪い影響を与える商品の販売を自粛するなど、企業としても果たすべき社会的責任がある。	20

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

「盛岡市子ども・若者育成支援計画」の10年計画が平成27年度から始まっており、子どもを有害環境から守るための方策については、市が率先して他機関と連携し、教育現場、保護者、地域を巻き込んで取組んでいく必要があるため。

Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- ・ 委嘱している少年補導委員と専任補導員（市非常勤職員）との合同巡回を重ねることにより、スキルの向上が図られる。
- ・ 少年相談の体制強化については、人員増や予算の確保が必要となるが、関係機関との連携についても検討する。

2 1の改革改善案の実施状況

（A：着手済， B：平成29年度に着手（予定含む）， C：未着手または見送り）

改革改善案	具体的な取組（予定）内容	状況
少年補導委員と専任補導員の合同巡回	定期的・計画的に合同巡回を実施するようにした。	A
少年相談の体制強化のための関係機関との連携	専任補導員の昼当番を設けて相談時間に対応するとともに、子ども青少年課職員が兼務することにより、街頭巡回やイベント等で専任補導員が相談を受けられない時間帯に対応できるようにした。	A

3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

Step 7 成果・問題点の把握

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

少年センターの街頭巡回において、多くの子どもたちに声かけをすることが可能となり、少年非行の未然防止と早期発見に結びついた。

(2) 成果をあげた要因

巡回活動時間帯の見直しや季節や祭事に応じた巡回エリアの設定をしたため。

(3) さらなる成果向上に向けた課題（課題がある場合に記載）

- ・ 巡回エリアによっては子どもと接する機会が少ない箇所もあることから、より効率的な巡回時間やコースの設定をする必要がある。
- ・ 委嘱している少年補導委員への研修機会を設ける必要がある。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

少年相談件数の伸び悩み。

(2) 現状の問題点が生じている原因

相談受付日時が限定されていること。

(3) 分析した原因の解決に向けた課題

悩みを抱える少年の相談を受けるための相談員の体制強化とスキルの向上が必要である。

Step 8 小施策と構成事業の関係性

1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

該当事業なし。

2 1で記載した事業についてその理由

3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

Step 9 Step 7, 8を踏まえた改革改善案

子ども青少年課における「家庭相談員活動事業」との連携により、相談体制の強化が図られる。